

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成30年4月19日 (2018.4.19)

【公開番号】特開2016-173746(P2016-173746A)
 【公開日】平成28年9月29日 (2016.9.29)
 【年通号数】公開・登録公報2016-057
 【出願番号】特願2015-53658(P2015-53658)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 9/48 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 9/46 4 5 2 H

G 0 6 F 9/46 3 1 0 Z

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月8日 (2018.3.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

プログラムに例外が発生した場合にシグナルを受信するシグナル通知関数としてモジュールの関数を登録する登録手段と、

前記シグナル通知関数に前記関数が既に登録されているか否かを判定する判定手段と、を有し、

前記登録手段は、前記シグナル通知関数として第 1 のモジュールの第 1 の関数を登録する場合に、前記判定手段により前記シグナル通知関数に第 2 のモジュールの第 2 の関数が既に登録されているか否かを判定し、前記判定手段により前記シグナル通知関数に前記第 2 の関数が既に登録されていると判定された場合に、前記第 1 の関数と前記第 2 の関数を呼び出す第 3 の関数を前記シグナル通知関数として登録することを特徴とする情報処理装置

。

【請求項 2】

前記登録手段は、前記第 1 のモジュールと前記第 2 のモジュールとを区別してモジュールを管理し、

前記第 1 のモジュールは前記登録手段の管理下にあるモジュールであり、前記第 2 のモジュールは前記登録手段の管理下でないモジュールであり、

前記登録手段は、前記判定手段により、前記シグナル通知関数に前記第 2 の関数が登録されていると判定された場合に、前記第 2 の関数の情報を記憶手段に記憶することを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】

前記例外の発生時に、登録済みである関数に前記シグナルを送信して例外処理を実行させる実行手段、をさらに有し、

前記実行手段が前記登録済みである関数に前記シグナルを送信して例外処理を実行させる際、前記記憶手段に記憶された前記第 2 の関数に対して、前記登録手段は前記第 1 の関数と前記第 2 の関数を呼び出す関数を送信することを特徴とする請求項 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】

前記登録手段は、前記シグナル通知関数として前記第 1 の関数を登録する場合に、前記

判定手段により前記シグナル通知関数に前記第 1 の関数が既に登録されているか否か判定し、前記判定手段により前記シグナル通知関数に前記第 1 の関数が登録されてないと判定された場合に、前記第 3 の関数を前記シグナル通知関数として登録することを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 5】

前記登録手段は、前記第 1 の関数の情報を第 1 の情報管理領域に記憶し、前記第 2 の関数の情報を第 2 の情報管理領域に記憶する処理を行うことを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 6】

前記登録手段は、前記シグナル通知関数として前記第 1 の関数を登録する場合に、前記判定手段により前記シグナル通知関数に前記第 2 の関数が既に登録されているか否か判定し、前記判定手段により前記シグナル通知関数に前記第 2 の関数が既に登録されていると判定され、さらに、前記判定手段により前記シグナル通知関数に前記第 1 の関数が既に登録されているか否か判定し、前記判定手段により前記シグナル通知関数に前記第 1 の関数が登録されていないと判定された場合に、既に登録されている前記第 2 の関数の情報を前記第 2 の情報管理領域に記憶する処理を行うことを特徴とする請求項 5 に記載の情報処理装置。

【請求項 7】

複数の前記登録手段を備え、

複数の前記登録手段は、例外処理時に呼び出す前記関数の設定情報を共有し、前記設定情報が存在していない場合に設定情報を新規に作成し、前記設定情報が存在する場合、前記設定情報に当該登録手段のエントリー情報を登録することを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 8】

複数の前記登録手段のうち、第 1 の登録手段は、前記設定情報に第 2 の登録手段のエントリー情報が存在する場合、前記設定情報を削除せず、前記設定情報にある前記第 1 の登録手段のエントリー情報を削除することを特徴とする請求項 7 に記載の情報処理装置。

【請求項 9】

前記登録手段は、情報処理装置のリソース情報を取得し、リソース情報にしたがって前記例外の発生時に呼び出される関数の順序を制御し、前記例外の発生時に呼び出される前記関数の順序を、前記モジュールの優先度に従う順序に変更することを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 10】

情報処理装置にて実行される制御方法であって、

プログラムに例外が発生した場合にシグナルを受信するシグナル通知関数としてモジュールの関数を登録する登録工程と、

前記シグナル通知関数に前記関数が既に登録されているか否かを判定する判定工程と、
を有し、

前記登録工程では、前記シグナル通知関数として第 1 のモジュールの第 1 の関数を登録する場合に、前記判定工程において前記シグナル通知関数に第 2 のモジュールの第 2 の関数が既に登録されているか否か判定し、前記判定工程において前記シグナル通知関数に前記第 2 の関数が既に登録されていると判定された場合に、前記第 1 の関数と前記第 2 の関数を呼び出す第 3 の関数を前記シグナル通知関数として登録することを特徴とする制御方法。

【請求項 11】

請求項 10 に記載した制御方法の各ステップをコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明に係る情報処理装置は、プログラムに例外が発生した場合にシグナルを受信するシグナル通知関数としてモジュールの関数を登録する登録手段と、前記シグナル通知関数に前記関数が既に登録されているか否かを判定する判定手段と、を有する。前記登録手段は、前記シグナル通知関数として第1のモジュールの第1の関数を登録する場合に、前記判定手段により前記シグナル通知関数に第2のモジュールの第2の関数が既に登録されているか否かを判定し、前記判定手段により前記シグナル通知関数に前記第2の関数が既に登録されていると判定された場合に、前記第1の関数と前記第2の関数を呼び出す第3の関数を前記シグナル通知関数として登録する。